資料 1

（１）海洋プラスチックごみ対策アクションプランの進捗状況及び課題と対策について
気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（主な取り組み）

【海上の取り組み】

・海ごみステーションの設置（P2）
・気仙沼湾海面清掃業務（P3）
・国指定天然記念物「十八鳴浜（くぐなり）及び九九鳴（くくな）き浜」保全事業（P4）
・海岸清掃ボランティア活動の支援（P5）
・海岸清掃への支援（P6）
・海水浴場清掃事業（P8）

【陸上の取り組み】

・使用済み漁具のリサイクル化に係る取り組み（P9）
・オリジナルエコバッグを活用した啓発（P10）
・不法投棄対策（P11）
・農業用プラスチックごみの回収推進（P12）

【意識の啓発と変革】

・ごみのリサイクル・分別徹底の普及・啓発（P13）
・海洋教育研究開発事業（P14）

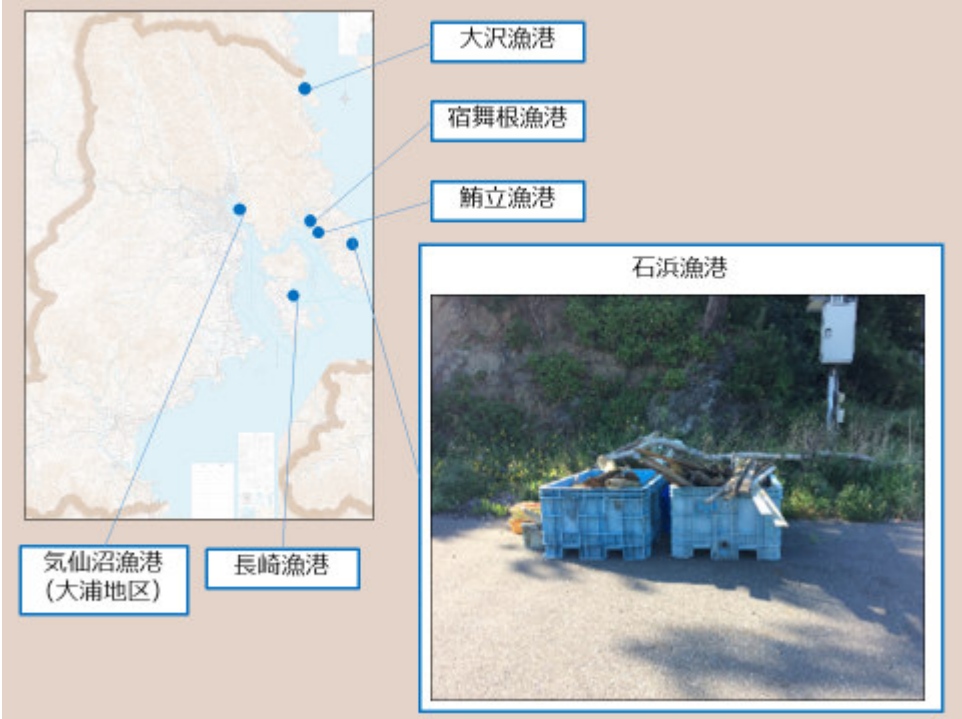
気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（海上の取り組み）

事業名	海ごみステーションの設置

【実施状況】

漁業者が回収した流木やプラスチックごみ等といった漂流・漂着ごみの適切な集積及び処理を推進するため，市と宮城県漁業協同組合各支所が調整し，令和３年６～１０月に比較的漁業者の目が行き届く市内漁港６か所に，暫定的に海ごみ回収ステーションを設置した。

漂流・漂着ごみについては，国の補助事業を活用し，随時収集・運搬を行っており，大曲最終処分場にて仮置きし１年をかけて除塩後，産業廃棄物処理業者に委託し，処分を実施しており，海ごみ回収ステーションにて集積されたものについても同様の対応をすることとしている。



海ごみステーションマップ

【実施時期・期間】

令和３年６月から

【今後の取り組み・目標】

漁業者が入網ごみを集積する際に，野ざらしとしている漁港もあり，ごみの散逸が懸念されることから，引き続き海ごみ回収ステーションの活用を呼び掛ける。

海ごみ回収ステーションについては，漂流・漂着ごみに便乗して生活系ごみ等が投棄されることから，定期的に漁協・漁業者に状況を確認してもらい，速やかに運搬・処分する連絡体制を取るとともに，生活系ごみの投棄を禁止する旨の看板の設置を検討する。

（1　海上でのプラスチックごみの徹底した回収 ⑶海中ごみ・漂着ごみの徹底回収　④海岸清掃）　《令和４年度予算　1,071 万円》

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（海上の取り組み）

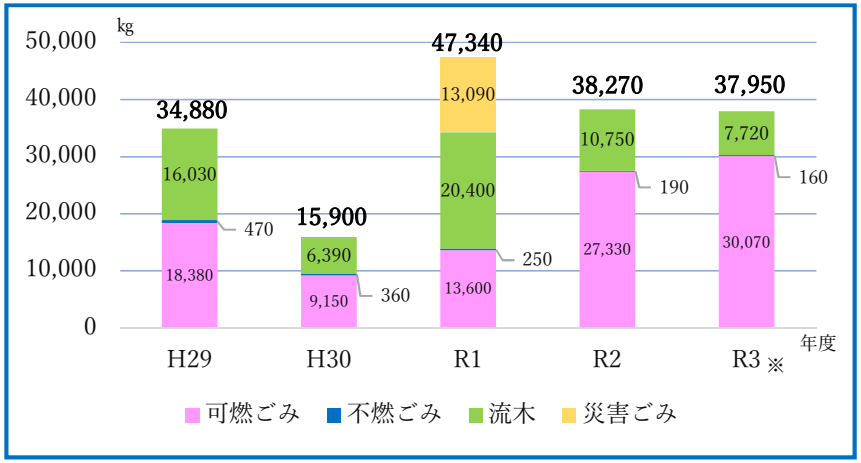
事業名	気仙沼湾海面清掃業務

【実施状況】

県から海面清掃船の貸与を受け，湾内の航路の安全と海面浮遊ごみ（流出した家庭ごみ，台風や大雨によるヨシガヤ，流木など）の回収を行っており，近隣自治体にはない独自の取り組み。

（委託先：特定非営利活動法人　気仙沼清港会）

令和 2 年度から，航路の安全確保に加え，漁港施設内に寄せ集まったごみの回収を行ったことで，可燃ごみの収集量が増えた。



海面ごみ回収実績

※令和３年度分は
２月末時点での数値

【実施時期・期間】

通年（週５～６日実施）

【今後の取り組み・目標】

アクションプランの推進を図るため，業務内容の見直しを検討する。

《検討内容》

・陸側からのごみの搬出が難しい十八鳴浜及び九九鳴き浜のボランティア清掃支援として，回収ごみの海上での受け渡し

・漁港等における海上から近付けない海面浮遊ごみの回収

回収の様子

（1　海上でのプラスチックごみの徹底した回収 (3)海中ごみ・漂着ごみの徹底回収　④海岸清掃）　《令和４年度予算　1,762 万円》

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（海上の取り組み）

事業名	国指定天然記念物「十八鳴浜及び九九鳴き浜」保全事業

【実施状況】

貴重な鳴砂の浜である国指定天然記念物「十八鳴浜及び九九鳴き浜」には毎年大量のごみ（ヨシガヤ・流木・発泡スチロール等）が漂着しており，生涯学習課及び地域住民やボランティア団体が中心となって，定期的に清掃作業を実施している。

また，両浜は車両の進入が不可能で，流木等の大型漂着物については背後地に仮置きしているため，数年に一度，作業船を使用して海上からの大規模回収作業を実施している。

九九鳴き浜清掃の様子

【実施時期・期間】

	実施状況	ごみの大規模回収
十八鳴浜 （大島）	・業務委託（シルバー人材センター） ・年３～５回清掃	令和３年１月
九九鳴き浜 （唐桑）	・生涯学習課，唐桑海友会及び地域住民 ・令和３年度　7/20　49 名参加	令和３年 12 月

【今後の取り組み・目標】

・地域住民やボランティア団体と協力して定期的な浜清掃を継続し，鳴砂の保全及び文化財保護意識の高揚に努める。

・唐桑海友会員の高齢化に伴い，清掃参加者の確保が難しくなってきているため実施体制について早急に検討を進める。

・作業船使用の大規模回収作業についても，定期的な実施に努める。

（1　海上でのプラスチックごみの徹底した回収 ⑶海中ごみ・漂着ごみの徹底回収　④海岸清掃）　《令和４年度予算　11 万円》

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（海上の取り組み）

事業名	海岸清掃ボランティア活動の支援

【実施状況】

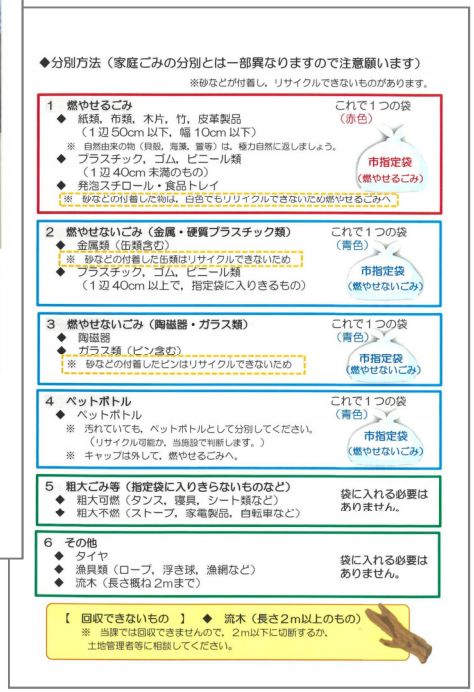
清掃ボランティア活動が円滑に行われるよう，**令和３年６月にボランティアによる清掃ガイドラインを作成**し，海岸清掃実施団体等との事前協議の際に配付するとともに，市のホームページに掲載し，ごみの分別方法や回収・処理方法など活動に対する市の支援内容を周知している。

《令和３年度実績》

海岸清掃を実施した 31 団体に対して，回収したごみの処理費用の免除や運搬等の支援を実施。

《支援団体数》

年度	団体数
平成 30 年度	5
令和元年度	7
令和２年度	14
令和３年度	31（R4.2 月末現在）



【実施時期・期間】

通年

【今後の取り組み・目標】

・継続的な海岸清掃活動が図られるよう，申請団体に対し適切な支援を実施する。

・実施団体や参加者に活動実績に応じてノベルティグッズ（缶バッジ，T シャツなど）を贈呈するなど，活動への意欲を高める工夫をする。

（1　海上でのプラスチックごみの徹底した回収 (3)海中ごみ・漂着ごみの徹底回収　③海岸の清掃）

（3　意識の啓発と変革（2)海洋教育・環境教育を含む ESD の推進　③ボランティアごみ回収ガイドラインの作成）

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（海上の取り組み）

事業名	海岸清掃への支援　※令和３年度新規事業

【実施状況】

市民との協働により，海岸をきれいに保つことで，利用者も訪れた人も「海岸を汚さない」「ごみを捨てない」の意識の高揚に繋げ，海洋プラスチックの海への流出抑制が図られるよう，令和 3 年度から海岸清掃を行う団体の活動に対し，ごみ袋等の購入費用として環境保全活動奨励金（上限１万円）を交付している。

日頃から海を利用している各種団体が個別に清掃活動を続けているが，令和 3 年度は，海への感謝と海の未来を守る意思を込め，サーフィンやビーチサッカーなど 6 団体が合同で一般参加者を募って 5 海岸ビーチクリーンを実施した。市においてもビーチクリーンに参加し，ごみの分別や運搬作業支援を行ったほか，様々な取り組みが図られた。

モネちゃんおかえり大島お化粧作戦（大島ウェルカムターミナル）

６団体合同ビーチクリーン（小泉海水浴場）

〇環境保全活動奨励金交付団体（6 団体・11 件）

団体名	活動内容	その他
気仙沼市婦人会連絡協議会	・モネちゃんの前に大島お化粧作戦, ・モネちゃんおかえり大島お化粧作戦第 2 弾 ・大島地区内の海岸やウェルカムターミナル付近の清掃・花の植栽	4 月,10 月 約 80 人参加
気仙沼本吉サーフィンクラブ	・5 海岸清掃の定期開催（小泉海水浴場，登米沢海岸，大沢海岸，大谷海水浴，お伊勢浜海岸） ・各種団体の合同実施	5 月, 7 月,9 月 約 400 人参加
STAX SURF	・お伊勢浜でマリンスポーツを楽しむ団体による活動 ・お伊勢浜から沖の田川河口までの清掃活動を継続実施	7 月,9 月,11 月 約 90 人参加
気仙沼市階上観光協会	・地域住民参加によるお伊勢浜海岸の清掃と地域内連帯 ・活動による環境保全活動への気運醸成	7 月 約 60 人参加
大島児童館子育てネットかめりあクラブ	・児童館を利用する児童と保護者の会 ・環境保全活動をとおして地域の自然の豊かさを再発見する。	7 月 14 人参加
階上地域まちづくり振興協議会	・地域ぐるみによる環境美化活動により地域連携強化を図る。 ・プラスチックスマートの一環として取り組む	7 月 約 40 人参加

【実施時期・期間】

通年

【今後の取り組み・目標】

・海岸のごみの清掃場所等に偏りがあるため，海岸のごみ漂着状況や清掃場所の状況などを示した「浜マップ」の作成等，効果的に清掃活動が行える仕組みづくりについて検討する。

・浜清掃を体験活動や企業研修のメニューとして参加者を募集するなど，参加者を増やすための工夫・検討を行う。

・ボランティア団体の協力を広く周知し，市民の意識の高揚に繋げるとともに，観光等で訪れる方に対し，ごみの持ち帰りを促す取り組みを図る。

はしかみクリーンアップ大作戦（階上地区海岸）

（海上でのプラスチックごみの徹底した回収 ⑶海中ごみ・漂着ごみの徹底回収　④海岸清掃）　《令和４年度予算　50 万円》

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（海上の取り組み）

事業名	海水浴場清掃事業

【実施状況】

三陸復興国立公園開発推進協議会（市事務局）により，観光協会等へ清掃業務を委託。

〇令和３年度

・小田の浜海水浴場清掃

・大谷海水浴場清掃

・小泉海水浴場清掃

また，地区観光協会や地元有志などにより，海水浴場開設に向けた清掃活動が実施された（市内に４個所ある海水浴場のうち３個所が開設）。

ビーチクリーナー

海水浴場清掃とツーリズムの連動

【実施時期・期間】

夏季に重点を置きながら通年で実施。

各海水浴場において年間 60 日の清掃活動。

【今後の取り組み・目標】

・清掃活動に対してビーチクリーナーを貸し出すことで（令和３年度貸出し　５件）作業負担の軽減を図る支援を行うとともに，流木等の大きな漂着ごみの運搬処分について，継続して業者への委託を行う。

・環境保全意識の高い観光客や地域住民をターゲットに、ツーリズムの一環となりつつある。人の手による細やかな清掃も併せて行い、地域住民の海岸への愛着を育みながら、持続的な活動としていく。

・令和４年度以降も継続した清掃事業の実施を予定。

（海上でのプラスチックごみの徹底した回収 ⑶海中ごみ・漂着ごみの徹底回収　④海岸清掃）　　《令和４年度予算　81 万円》

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（陸上の取り組み）

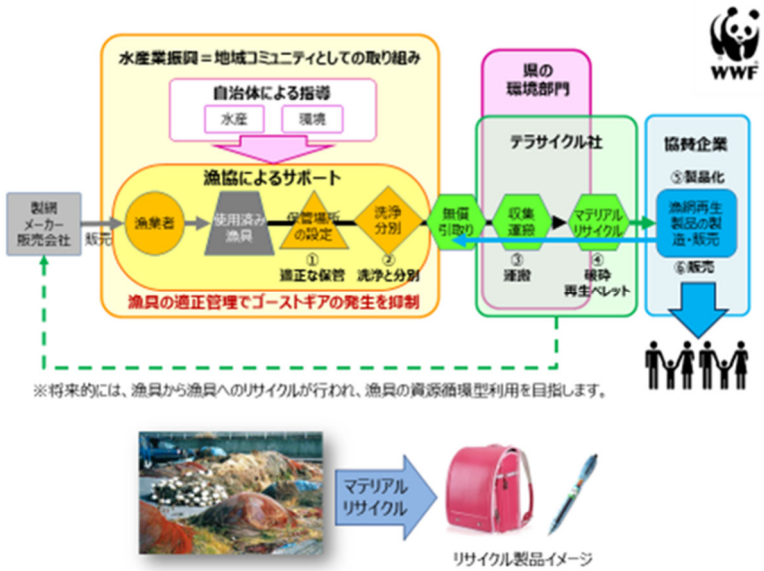
事業名	使用済み漁具のリサイクル化に係る取り組み

【実施状況】

本市と公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン （WWF ジャパン）が連携して，宮城県漁業協同組合（気仙沼総合支所，唐桑支所，気仙沼地区支所，大谷本吉支所）及び，気仙沼遠洋漁業協同組合，の協力を得ながら，漁業者が廃棄する予定の使用済み漁具を回収・リサイクルし，漁業者の漁具管理を通じて，漁業由来の海洋プラスチックごみの発生を抑制するプロジェクトを事業化するための協議を進めている。

現在，一部の漁業者から廃漁網を回収し，リサイクル可能な素材，分別・洗浄の程度等を，協賛いただいているリサイクル会社にて調査を行っているところ。

また，地元企業である amu 株式会社が，一般社団法人宮城県北部鰹鮪漁業組合を含む本市漁業関係者の協力を得ながら，まぐろはえ縄漁で使い古されたテグスをリサイクルし，ジャケットを製造・販売する事業を進めている。



WWF ジャパンとの事業イメージ図

【実施時期・期間】

令和３年８月から

【今後の取り組み・目標】

・リサイクル製品化のテストをした後，漁業者から本格的な廃漁網の回収を行う。
・本市における海洋プラスチック対策として，パネル展や講演等で市民に紹介することで，コミュニティ全体の行動変容や，漁業者がより適切に漁具管理に取り組むためのモチベーション向上を図る。
・将来的な事業化を見据えた取組を目指したプロジェクトの推進を図る。

（２　陸上でのプラスチックごみの削減と流出抑制　(1)漁具等のプラスチックごみの適正回収　①使用済み漁具の適正回収）

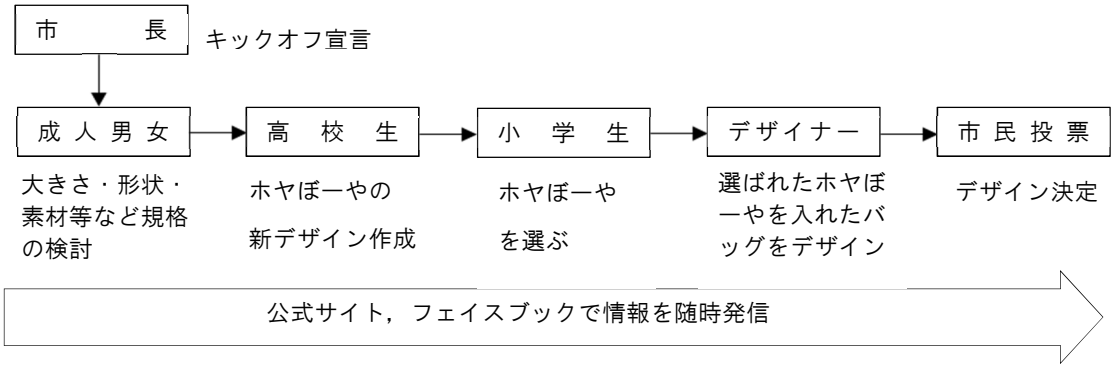
気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（陸上の取り組み）

事業名	オリジナルエコバッグを活用した啓発

【実施状況】

令和２年度にマイバッグ運動の更なる推進に向け，気仙沼市オリジナルエコバッグを制作。市民が制作過程に関わることにより海洋プラスチックごみ問題に対する関心を高め，それぞれのライフスタイルを見直し，行動変容するきっかけとなることを目的として実施。

市民参加型の取組みとして制作過程において小学生・高校生に意見を反映したうえで，市民が関わる段階的な意見反映の仕組みが機能した。



スーパー用（大）1,500 円

コンビニ用（小）850 円

エコバック PR・販売（スローフェスタ 2021）

【実施時期・期間】

通年

【今後の取り組み】

・レジ袋削減に向けたマイバッグ運動を推進するため，オリジナルエコバッグの市内各所での販売や各種イベント等で販売・展示する。
併せて，マイバッグ運動やレジ袋削減の取り組みを推進する。

・現在市内６カ所で販売しているが，市内小売店のほか，市外の観光物産施設やアンテナショップ等でも販売し，広く取り組みの PR を図る。

（陸上でのプラスチックごみの削減と流出抑制　(1)使い捨てプラスチックの使用抑制　②オリジナルエコバッグ作成）

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（陸上の取り組み）

事業名	不法投棄対策

【実施状況】

海洋プラスチックごみの約８割が陸上からと言われていることから，不法投棄の多発箇所について，監視カメラや不法投棄防止看板を設置し，設置後の状況を注視するとともに，周辺の巡回パトロールを実施。

また，海岸等でのポイ捨てや不法投棄の発生事案を踏まえ，令和２年10月に気仙沼警察署に対し，大島地区の夜間パトロールの強化を依頼。

設置数（令和２年度）

・カメラ　延べ 12 箇所

・看　板　30 箇所（48 枚）

不法投棄防止看板

監視カメラ

【実施時期・期間】

通年

【今後の取り組み・目標】

監視カメラを設置した箇所では不法投棄ごみの回収量は減少傾向にあるものの，新たな場所での不法投棄が後を絶たないため，巡回パトロールの強化や効果的な防止対策を検討する。

（２　陸上でのプラスチックごみの削減と流出抑制　⑶陸上での徹底した回収　②ポイ捨て・不法投棄撲滅に向けたパトロール強化）　《令和４年度予算　44 万円》

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（陸上の取り組み）

事業名	農業用プラスチックごみの回収推進

【実施状況】

新みやぎ農業協同組合，気仙沼市，南三陸町，登米市，㈲ヨネキ商店で構成する「南三陸農協管内農業用廃プラスチック適正処理推進協議会」では，新みやぎ農業協同組合南三陸地区本部管内（気仙沼市，南三陸町，登米市津山町）の農業分野における園芸資材における生産資材（マルチ・ビニール）等の回収を平成 14 年度から開始。

東日本大震災後は，放射能汚染により基準値を超えた農業用廃プラスチックごみもあったが，現在は放射線測定器（環境放射能モニター）により測定し，持ち込まれたごみを適正に処理している。

○回収方法

JA 営農センター等の指定回収場所に農家が持ち込み回収

（農家負担回収費　50 円/kg）

○事業実績（7 月と 12 月の年 2 回実施）

・令和元年度　31,015kg（※14,929kg）

・令和 2 年度　40,523kg (※19,107kg)

・令和 3 年度　31,808 kg(※14,234kg)

※新みやぎ農協南三陸地区本部管内の気仙沼地区分の回収量

【実施時期・期間】

7 月と 12 月の年 2 回実施

【今後の取り組み・目標】

・市としても協議会の構成員として，農業関連廃プラスチックなどの不法投棄を無くし，環境保全への意識を高める協議会の活動を側面から支援する。

・異常気象や自然環境の変化により発生する自然災害被害（ビニールハウス・マルチ被害）がごみの発生にも直結することから，これらの被害を未然に防止するため関係機関と連携し迅速な情報提供と対応に努める。

台風 19 号で損傷したビニールハウス

（2　陸上でのプラスチックごみの削減と流出抑制　⑶陸上での徹底した回収　③農業用プラスチックごみの回収促進）　《令和４年度予算　６万円》

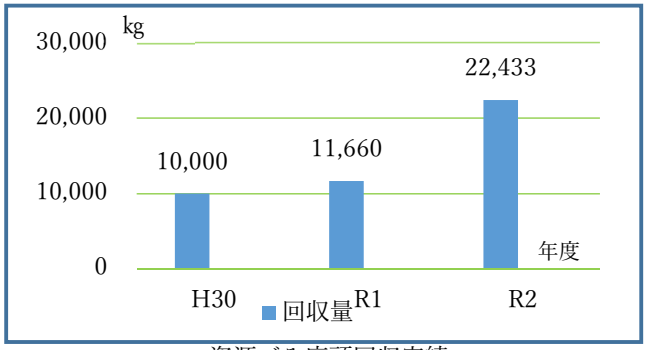
気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（意識の啓発と変革）

事業名	ごみのリサイクル・分別徹底の普及・啓発

【実施状況】

ごみ出しルールポスターや収集カレンダーの配布，気仙沼生活情報アプリでの配信のほか，市広報紙によるごみの分別ワンポイントなどの掲載により，ごみ分別徹底の周知を行っている。また，市内スーパーマーケット等が店頭に設置しているリサイクルボックスの利用を促し，ごみの再資源化・減量化を図っている。

また，ごみ処理施設見学会の開催や自治会等によるごみ分別講習会への職員派遣，屋外イベントへ「ごみステーション」を設置するなど３Ｒの周知活動，普及・啓発等に取り組んでいる。



資源ごみ店頭回収実績

【実施時期・期間】

通年

【今後の取り組み・目標】

市民一人ひとりの意識を変えるため，引き続き市広報紙やＫ－ＮＥＴ，イベントにおいて「ごみステーション」の貸し出しを行う等により，ごみの分別方法や３Ｒの周知に努めます。効果的な普及啓発を行うため，庁内各課および関係機関・団体の取り組みとの協働やイベント等での啓発ツールを活用し，一層のごみリサイクル・減量化を目指す。

ごみ出しルールポスター

（２　陸上でのプラスチックごみの削減と流出抑制　⑵家庭系リサイクルごみの分別徹底　①・②）
（３　意識の啓発と変革　⑴消費者のライフスタイルの変革　①・④）

気仙沼市の海洋プラスチックごみ対策（意識の啓発と変革）

事業名	海洋教育研究開発事業

（実施状況）

総合的学習（探求学習）等での海洋教育や環境教育を通して，児童・生徒の意識啓発に取り組み，保護者や地域の意識啓発につながっている。

〇外部講師による海洋プラスチックごみに関する授業

大学や外部団体との連携により，専門的な知識や生態系への影響や最新の情報を取り入れた講義や演習が行われ，児童生徒の意識啓発がなされている。ポスターやステッカー，蜜ろうエコラップ制作などの取り組みは，校内だけの活動にとどまらず，家庭や地域への啓発活動へ広がっている。

・10 月 30 日　松岩小学校　４~6 学年　　東京海洋大学
・10 月 30 日　大谷小学校　４学年　　NPO 法人浜わらす
・11 月　９日　階上小学校　５学年・保護者　　岩手大学
等　５小学校

面瀬小学校の取り組み（ごみ分別ステッカー）

〇海岸清掃及び回収物の分別・分析

プラスチックごみの回収・分別活動から，一人一人が課題意識を持つきっかけとなり，成果発表等から「海を守る」意識への価値観の高まりが見られた。

・７月　１日　大島中学校　全校　鹿折中学校　１学年　小田の浜
・７月　３日　唐桑中学校　３学年　　中の浜
・８月　４日　唐桑中学校　３学年　　笹浜
・８月 28 日　大島小学校　全校　　小田の浜
等　８小中学校

大島中学校の漂流物調査の様子

〇教員研修会

環境保全団体である世界自然保護基金（ＷＷＦ）ジャパンを講師に海洋プラスチックごみ問題を教材として取り上げるための教員研修を実施し，授業等で実践活用している。

「海洋プラごみゼロ」プロジェクト研修会

・9 月 30 日　中央公民館　市内小中学校教員等 29 名参加

「海洋プラごみゼロ」プロジェクト研修会

〇海洋プラスチックごみ啓発パネル巡回展示

海洋プラスチックごみ問題の原因や状況，課題などを解りやすくまとめた啓発パネル（6 枚）を市内各小学校に巡回展示。

授業の振り返りや，海洋プラスチックごみについて関心を持つきっかけとなる等，学習を補完する教材となった。

啓発パネルの一部

【実施時期・期間】

通年

【今後の取り組み・目標】

学校，保護者，地域，行政，企業等における取組の共有や連携による意識付けにつながる活動を行う必要がある。

また，専門家を招聘し教員研修会の実施や，海洋教育や環境教育を通した児童生徒の行動化の検証を進めたい。

児童生徒の実践発表や学校行事として行う海岸クリーンアップ活動の実施により，学校での取組の共有や企業等との連携につなげたい。

（3　意識の啓発と変革⑵環境教育を含む ESD の推進　④海の環境を考え，課題解決のための資質・能力を培う ESD・海洋教育）　《令和４年度予算　1,000 万円》

【参考】海洋プラスチックごみ対策に関する事業

No.	課　　名	事　業　名	内　　容	R4 予算額（千円）
1	循環型社会推進課	ごみ収集に関する業務 不法投棄に関する経費	気仙沼湾海面清掃業務	18,065
2	生活環境課	海洋プラスチックごみ対策事業	海洋プラスチック対策推進会議の開催など	500
3	水産課	海洋漂着物等地域対策事業	漂着・回収がれき等運搬処分業務	10,715
4	農林課	気仙沼・本吉管内農業用廃プラスチック適正処理推進協議会負担金	団体の活動・事業内容 ・農業用廃プラの組織的・広域的な回収など	60
5	観光課	海水浴場清掃	国立公園の清掃事業	810
6	学校教育課	海洋教育研究開発事業	市内小中学校による海洋教育・環境教育	10,000
7	生涯学習課	十八鳴浜及び九九鳴き浜保全事業	十八鳴浜及び九九鳴き浜の清掃	110
			計	40,260